



あけましておめでとうございます

この冬は例年になく厳しい寒さが続いており、インフルエンザの流行の兆しがみられます。くれぐれも体調管理にはお気を付け下さい。

さて、当院では昨年4月から常勤の糖尿病専門医が加わり、糖尿病診療の体制が整いました。今後、地域での糖尿病診療の充実に貢献できるものと期待しています。また、整形外科では腰椎椎間板ヘルニアや腰部脊柱管狭窄症などの脊椎外科の手術症例も増加しています。これからも近隣の医療機関からの紹介患者さんや介護・福祉施設などからの救急患者さんを積極的に受け入れて、救急病院としての役割を果たしていきたいと考えています。

一方、来る1月28、29日、日本医療機能評価機構による訪問審査を受けることが決まりました。平成15年に認定病院となって以来、今回が3回目の受審となります。外部の第三者機関による評価を受ける目的は、医療の質の向上、患者サービスの改善、業務の効率化などを図り、病院全体のレベルアップを目指すことです。そのことにより「地域から信頼され、人に優しい医療の提供を目指して」の理念を実現していきたいと思ひます。

本年もどうかよろしくお願ひ致します。



院長
那須範満



こつそしょうしょう 最近、骨粗鬆症の薬が進歩しています。

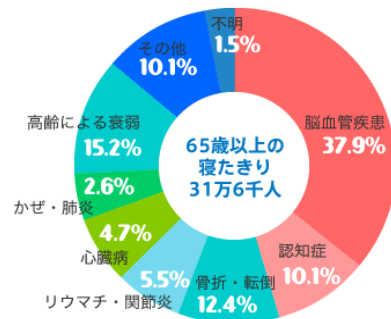
骨折や転倒から寝たきりとなる患者の割合は、脳血管疾患に次いで多く、全体の12.4%を占めています。高齢者の骨折を予防するには、運動や食事療法以外に、骨粗鬆症の診断と治療が重要です。

女性は閉経期を過ぎると急激に骨粗鬆症が進みますので、早めに骨塩定量を受けるようにしてください。当院においても骨塩定量装置がありますので、主治医に相談してください。残念ながら骨粗鬆症と診断された場合は、治療が必要です。最近、骨粗鬆症治療薬の進歩が目覚ましく、様々な種類や投与形態の薬が発売されています。中等度の骨粗鬆症であればビスホスホネート薬と活性型ビタミンD薬の投与が勧められますが、高度な骨粗鬆症で骨折の危険性が高い場合は副甲状腺ホルモン薬の投与が必要です。

今まで骨塩定量を一度も受けたことのない方、あるいは最近骨折を経験した方は是非整形外科を受診してください。あなたにとって適切なアドバイスと治療薬を提供していきます。

整形外科部長 藤田 悟

寝たきりとなる主な原因



厚生労働省大臣官房統計情報部編：平成12年グラフで見る世帯の状況
一国民生活基礎調査（平成10年、11年）の結果から、58,200より改変

冬の感染症に気をつけよう！



- ❖ 冬季は空気が乾燥し、気温が低くなるためウイルス感染症がピークを迎えます。空気が乾燥するとウイルス自体の水分が蒸発して比重が軽くなるため空気中に浮遊し、伝播しやすくなります。浮遊したウイルスによって、人ののど・鼻腔・気管支の粘膜に定着し、感染が起こります。
- ❖ 特に問題となる感染症は、インフルエンザとノロウイルスによる感染性胃腸炎です。
- ❖ 低温・低湿度下ではウイルスが体外でより長く安定して存在することが可能となります。

＜感染予防対策は、感染経路を断つことです＞

- ❖ インフルエンザも感染性胃腸炎も“手洗い”を習慣づけることが感染対策の基本であり、感染を拡げないためには重要です。すぐに手が洗えない場合は、アルコールによる手指消毒を行いましょう。
- ❖ 手洗いとともに重要なのは、マスク・手袋・エプロンなどを感染経路に応じて適切に使用することです。これらを外した後の手洗いも必要です。
- ❖ 自分自身が感染症に罹らないように、睡眠と栄養を十分にとること、手洗いなどの感染予防対策を行うことが重要です。
- ❖ 症状出現時にはできるだけ早めに医療機関を受診するようにしましょう。

感染管理認定看護師 雪田 智子

糖尿病コラム

インスリンの発見にまつわるエトセトラ

大掃除のときに、不要な雑誌や書籍をひもで束ねてある、一番上の本に目が留まりました。「ミラクル インスリン発見の物語」というタイトル。処分しようと思っていたのですが、そのときは何故か手に取り、読み始めました。

現代病の代名詞とも言える糖尿病は、インスリンの作用不足により起こる病気であると、一般にも広く知られています。皆さんは、インスリンの詳しい作用をご存知でしょうか？インスリンは、血糖値を下げる唯一のホルモンで、体の主たるエネルギー源であるブドウ糖を、血液の中から細胞内に運んでくれます。ですから、インスリンが完全に枯渇すると、血液中にブドウ糖があるにも関わらず、細胞は飢餓状態になり、治療をしなければ体はやせ衰えて、死に至ります。ちょうど90年前のインスリンの発見までは、糖尿病(1型糖尿病)は、確立した治療法が全くなく、発症から1年未満で死に至る恐ろしい病でした。私も子を持つ親として、小さな子供が骨と皮になりやせ衰える様子を想像すると、昔の患者さんやご両親が、病をただただ恐れ、神様に祈るしかなかったということは、よくわかります。

第一次世界大戦で、心に傷を負い、プライベートも仕事もうまくいかない、整形外科医、フレデリック・バンディングは1922年に膵臓からインスリンを抽出し、その投与によって糖尿病患者の血糖値を下げることに成功しています。この本のもう一人の主人公エリザベス・ヒューズはアメリカ高官の娘で、12歳の時に1型糖尿病を発症し、宣告された余命を超えて厳しい療養生活を送っていました。彼女は、両親の情報力、経済力により、バンディングからインスリンを投与されます。インスリンを投与された世界で3人目の患者です。彼女はインスリンの投与によりめきめき元気になり普通の生活を送れるようになりますが、偏見が強い時代だからでしょうか。その後、糖尿病については近い家族にも死ぬまで秘密にし、糖尿病と切り離れた人生を生ききったそうです。

発見から2年後には日本でもインスリン治療が出来るようになり、今ではインスリン分泌の枯渇していない糖尿病患者さんにも、広く使用されています。

時計の針は24時を過ぎ、私は、読み終えた本を閉じました。そして、若くして命を落とした多くの患者さんやご家族、糖尿病の病態に迫るも成功に至らなかった多くの研究者の、物語にならない物語に思いを馳せ、布団に入りました。

医師 松崎 慈子

今年も、2月・5月・8月の第2週に糖尿病教室を開催いたします。
ウォークラリー、料理教室なども企画中！
さらに、みなさんからのアイデアも募集いたします。
詳しくは糖尿病担当医師 俵本・松崎までご連絡ください。

宝塚第一病院 医事課を ご紹介いたします

医事課では、診察受付と処方せん交付、会計、総合案内、入院受付を担当しています。主たる業務は、診療費の計算と健康保険への請求です。診療費計算では、計算時に処方せんの発行準備や紹介状の発行も行っています。正確に、そして早く処理して、患者様の待ち時間がないよう日々努めています。

また、今年に電子掲示板を導入しました。診察受付AとB、外来会計に設置しています。宝塚第一病院情報(休診や代診のお知らせも含みます)や健康・医療情報、頭の体操にもなるクイズ、時事ニュース・スポーツニュース、世界各地の風景動画等を放映しています。待ち時間の間にご覧いただければと思います。

医事課職員一同、患者様が当院にお越しになられたら笑顔でお迎え、お帰りになるときは笑顔でお送りできればと思っています。

この度、当院のホームページをリニューアルしました。休診や代診情報なども確認できるようになっています。是非、アクセスしてください。

<http://www.takarazuka-daiichi-hp.or.jp/>

